



<今月の1枚>「秋のあいさつ運動強調週間」

「努力の壺」のおはなし

「がんばる子ども」にかける言葉として、今回は「努力の壺」というお話を紹介します。

【引用：「子どもを変えた親の一言 作文25選」(明治図書出版、1998年)

さか上がりの練習を頑張る子どもに、母親が語りかけた言葉です。

…人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から努力の壺をもらいます。その壺は人によって、大きいのも小さいのもいろいろあります。そしてその壺は、その人には見えないのです。でも、その人が壺の中に一生懸命「努力」を入れていくと、それは少しずつたまって、いつか「努力」があふれる時、壺の大きさが分かるというのです。だから、休まずに壺の中に努力を入れていけば、いつか必ずできる時がくるのです。

この言葉を受けた子どもが作文に残しています。

…私はこの話が大好きです。くじけそうになった時でも、この話を聞いていると、心の中に大きな壺が見えてくる気がします。そして、私の「努力」がもう少しであふれそうに見えるのです。だから、また頑張る気持ちになれます。

昨今、「がんばれ！」という言葉の使い方に論議があるようですが、このお話は、全国の学校だよりや学級通信等で紹介されています。「人によって壺の大きさが違うけど、あふれ出る時が必ずくるから「がんばって続けてごらん。」と導くのはいかがでしょうか。

生涯学習推進アドバイザー 小田島 数幸 (前砂川高等学校長)